

第1回 サッカースタジアムについて意見を聴く会 議事録

1 日時

令和元年10月21日（月） 14時30分～16時30分

2 場所

JMSアステールプラザ2階 多目的スタジオ

3 出席者

(1) 委員

桂田隆行委員、原田宗彦委員、藤口光紀委員、北吉孝行委員、下村純一委員、辻孝和委員、
福村剛委員、佐藤仁司委員、野坂文雄委員、森崎和幸委員、高橋博委員、向井助三委員、
山田豊子委員、田中優菜委員
(欠席) 森崎浩司委員

(2) 事務局

広島市 中村都市整備局長、池田スタジアム建設担当部長、北山スタジアム建設担当課長

4 次第

- (1) 開会
- (2) 主催者あいさつ
- (3) 委員紹介
- (4) 事務局からの資料説明
- (5) サッカースタジアム建設への意見
- (6) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 資料

- (1) サッカースタジアムについて意見を聴く会開催要綱【資料1】
- (2) サッカースタジアムについて意見を聴く会のスケジュール【資料2】
- (3) サッカースタジアムについての意見について【資料3】
- (4) サッカースタジアム建設の基本方針【資料4】
- (5) サッカースタジアム建設場所（中央公園広場）の諸元等【資料5】
- (6) 新しいスタジアム・公園に関するアンケートの回答について（速報版）【資料6】
- (7) 広島市景観計画（抜粋）【参考資料1】
- (8) 中央公園内の公共施設等の現状【参考資料2】

7 議事要旨（次第5）

(1) 桂田委員

- ・ 昨年、サンフレッチェ広島主催のシンポジウムに出席させていただく機会があった。通常、このようなシンポジウムでは、聴衆の方は「スタジアムとは何だろう」というところから始まるが、広島の場合は聴衆の方がすでにスタジアムの造りつけや仕組みなどに詳しい方が多く、専門用語

も飛び交っているような感じで、市民の方がスポーツを観ることやすることに対して、また、プロスポーツに対しての深い知見と理解がある地域だと理解している。事実として、個人の寄附金も予想以上のペースで集まっているとも聞いている。

- このような環境の中、公園とスタジアムの整備について、広島のプロスポーツコンテンツに配慮、尊重したような事業スキームの建てつけ方があってもよいのではないかと考えている。通常、公共施設においてはスタジアムの運営者などは公募により選定することが基本だと思うが、広島市においては過去にもマツダスタジアムの指定管理者を非公募で選ばれたという実績もあるし、サッカーであればサンフレッチェ広島のような、広島のプロスポーツ事業に配慮した事業者選定のあり方があってもよいのではないかと考えている。野球やサッカーといったプロスポーツ観戦文化が地域に根付いている広島であれば、説明ができるのではないかと考えている。
- 他の例を挙げると、私は釜石市のラグビーワールドカップの会場にもなった鶴住居復興スタジアムの利活用検討の委員もしている。釜石市の場合は復興や子供たちの未来といった、どちらかと言うと社会的意義を重視したようなストーリーで、スタジアムを今後どうしようかというところから議論を始めているが、人口も多い広島の場合は、サステナブルなスポーツスタジアムの運営のあり方ということにある程度重視をして議論してもよいのではないかと考えている。持続可能性のあるスタジアム運営と公園の経営という視点を前提としつつ、一方で、スタジアムの建設予定地である中央公園が公共施設である以上、野放図な運営裁量を事業者側には認められないという前提も申し上げた上で、特に「公園の便益施設等」の「等」の部分について、どこまで柔軟な運用が認められるか、今後、広島市として事業者に認めることができる裁量範囲の議論もしていただければと思う。
- 最近、全国スタジアムアリーナの協議会などで、どういう運営が良いのだろうかという自治体が民間企業にアイデアを求めることがある。それは当然にそうすべきところだが、一方で、民間企業の中には法令遵守やコンプライアンスの意識が意外と薄い企業もある。おそらく日本で一番「まちなか」にできるサッカースタジアムを検討されている広島の場合には、いろんな民間事業者が関心を持つと予想しており、民間企業から様々な先進的なアイデアも出されるとは思うが、一方で、そうした企業の方々に法令遵守やコンプライアンスの意識があるかどうかという点は事前に精査をされたほうがよいと思う。先進的なアイデアが出た時点においては盛り上がったとしても、後々でそのアイデアを実践する企業にコンプライアンスなどの点で何か問題になってはいけないので、法令遵守の視点が欠けないよう御留意いただければと思う。

(2) 原田委員

- まず一番にお伝えしたいのは、スタジアムを複合化することが最も重要な観点であるということである。ラグビーワールドカップの開催に当たって、JTBとホスピタリティの会社がSTHジャパンという合併会社を作り、そこが今回のワールドカップのチケット販売を行っており、中には1部屋7人で2千万円という高額チケットもあるが、多くのチケットを売りさばき大成功を収めている。こうした関係者と話をする中で、「日本のサッカースタジアムは良いスタジアムがたくさんあるが、スタジアムの中にフレンチを作れる厨房がない」とか、もっと極端な話をするところ「ビールを醸造するブルワリーの機能がない」などといった話があった。
- スタジアムの複合化に当たっては、例えば、レストランをスタジアムの中に作って、日頃はそこを開放しながら、特別な試合の日にはビジネスラウンジ、ホスピタリティラウンジのフード&ビバレッジの拠点にしていくことや、会議室を貸し出すことなどが考えられる。欧米のスタジアムでは、大学の講義や小学校の授業でスタジアムを活用している事例もある。「算数は嫌だけど、スタジアムで算数の授業を受けられるなら」みたいな話もあったりする。キーワードはスペース

の有効利用である。スペースマーケットのようにスペースを売る企業もあり、さまざまな使い方が考えられる。

- ・ 今日ここに来るまでに少し周辺を見てきたが、やはりアクセスが抜群である。また、候補地の1つとなっていた旧市民球場跡地だとひどい混雑が予想されるため、中央公園広場のほうが人がばらけるので良いと思った。
- ・ サンフレッチェ広島の2019年の10月現在の平均観客動員数は14,221人であるが、新スタジアム効果というのは絶対あって、広島の野球球場の場合は約1.6倍ほど増えている。そうすると、新スタジアムには2万人を超えるファンが訪れるということが想定される。これをベースに年間40試合として、どのくらい人の流れが生まれ、お金が落ちるかを考え、そして、ニーズを平準化していくということが必要である。
- ・ また、都市公園法の改正により公園緑地行政が随分緩和されたことにより、民間との連携が加速していくとともに、ストック効果を高めていくことができると考えている。都市公園を一層柔軟に使いこなすということでは、大阪市が非常に規制緩和に向けて動いたという良い事例がある。例えば、長居公園はセレッソ大阪がJVに入って運営している。新スタジアムはサンフレッチェ広島のホームになるので、サンフレッチェ広島もそうした対応を考えて、「サッカーもやる、社会貢献もやる、ビジネスもやる」という形で、さまざまな施設の複合化と運営の複合化ということを視野に入れていくのがよいと思う。
- ・ 先ほど、誰が管理運営するかという話があったが、最近は公募型プロポーザルで運営のアイデアを事業者を求めるケースが多い。あるいは、コンセッション方式で20年、30年という長期の運営を委ねることも考えられる。また、これまでは都市公園法で企業の名前は出せなかったが、改正により堂々と企業名を出せる時代になったので、ネーミングライツにより収益の幅が広がっている。
- ・ 最後に、せめてラグビーボールが差せる穴ぐらいいは開けておいてほしいと思う。広島でラグビーの人気のないのはよく分かっているが、これからプロ化に向けた動きなどもあるので、そうした多機能化・複合化の可能性も考えていただければよいと思う。

(3) 藤口委員

- ・ 原田委員が言われたラグビーボールには私は真っ向から反対したいと思う。「何でもできる」ということは「何もできない」ということである。今までの施設はそうだったので、はっきりさせたほうが良いと思う。
- ・ 広島は食も自然も充実しておりとても良いところだが、サッカースタジアムだけがないのは寂しいと思っていた。カープはマツダスタジアムに移ってから非常に成果を上げている。やはり環境整備をするかどうかが大事である。広島は昔からサッカー王国と言われていたのに、今はそこまでなのは環境整備が遅れていたからである。ある意味、今年が広島のサッカー界のスタートの年ではないかと思っている。私は選手として海外でもプレーし、また、経営の立場からも見た経験から、スタジアムの良いところ、悪いところを多く知っているが、簡潔に述べると3つの機能が必要だと思っている。
- ・ 1つはスポーツセンターとしての機能である。普段から利用するために、スポーツジム、ランニングコースや広場、3x3やフットサルができるコートなど、いろんなことができるような設備が必要である。
- ・ 2つ目はコミュニティセンターとしての機能である。会議室や集会所、子どもたちが遊べる場所、高齢者が楽しめる場所、カフェやレストランなど、近隣の住民を含め子どもや高齢者などが日常から集える場所であることが必要である。

- ・ 最後の3つ目は、防災センターとしての機能である。今、日本全国各地で多くの自然災害に遭っている。広島市内は災害が少ないところだが、本当に何があるかわからない。中央公園広場の近くにはグリーンアリーナもあるので、そこと併せて、非常食の備蓄や蓄電器などを備えた避難場所として有効に使用できる防災センターであることが必要である。
- ・ スポーツセンター、コミュニティセンター、防災センター、以上の3つの機能を持ち合わせる場所であってほしいと思う。

(4) 北吉委員

- ・ まず、観光振興の観点からお話するが、本日お話する内容は、制約条件を一切考慮していないことを御容赦願いたい。観光振興の観点で大切なことは、何よりも回遊性の向上である。建設予定地の中央公園広場は、基町の高層アパート、広島城、旧市民球場跡地、グリーンアリーナ等に囲まれており、さらに南に行くと平和記念公園等がある。これらの地域や施設の魅力を総合的に見ることが何より必要だと思っており、この地域を訪れた方々がストレスなく回遊できる工夫が必要だと思う。そのための具体的な方法として1つ考えられることは、現在、国道54号線と城南通りが完璧に分断されているが、デッキで国道54号線と城南通りを結んでいただきたい。その際、できれば動く歩道も設置していただければ、訪れた人がストレスなく、中央公園、広島城、グリーンアリーナなどを回遊できるため、こうした仕掛けをお願いしたい。また、スタジアムの利便性の確保のために、新白島駅と紙屋町界限を結ぶ二次交通の充実についても同時に取り組んでいく必要があると思う。
- ・ 2つ目は、基町アパートの活性化である。現在、基町アパートの商業スペースはシャッター街化してしまっている。住民の方等との話し合いが必要だと思うが、基町アパートには中国や韓国の方も多くいらっしゃるので、例えば、中国料理や韓国料理などを提供できる店を入れ、サッカーの試合のない日にも賑わいのある市場的な商店街にリニューアルすることも選択肢の1つとして考えられるのではないかと思う。
- ・ 3つ目は、河岸緑地の有効活用である。平和記念公園からの動線確保という観点からも、平和記念公園、旧市民球場跡地、河岸緑地、中央公園広場を一体的な賑わいの空間として活用することが必要不可欠であると思っている。例えば、低層のレストランやショップなどが川に向かって立ち並ぶような場所にすることが考えられる。徳島で月1回開催されている「とくしまマルシェ」と呼ばれる市場があるが、河岸にパラソルを立てて市場を作り上げて成功している。広島においても、6大薬物野菜やそれ以外の農産物、広島湾の7大海の幸などを販売できるような魅力ある空間を作っていただけたらよいと思う。
- ・ 主には以上の3点だが、このほか、清潔で快適なトイレをできるだけ多く整備することや、四季折々のイベントの開催、スタジアムから花火が上げられるような仕掛けなどもあったらよいと思う。
- ・ 次に、MICEの振興の観点である。1つ目として、フィールドに関して、ピッチを利用した屋外コンサート、観客席を利用した表彰式・式典、野外パーティなどが可能なものになれば大変ありがたい。
- ・ 2つ目として、スタジアム内のスペースを会議室として整備していただきたい。その際、我々が関与する会議の規模からすると、ここで全てが完結する会議を開催することは難しいので、3、4室で計200人程度が収容できる会議室があれば、紙屋町ゾーンで開催する会議のサブ会場として活用できるため、そうした会議室の整備の検討をお願いしたい。
- ・ 最後に、3つ目はレストランである。近年、コンベンションを開く際に、ユニークベニューと言って、レストランを活用してパーティや会議を開催するという仕掛けがある。例えば、広島市

美術館はユニークベニューができる。このように、スタジアムでユニークベニューができるレストラン等を整備していただければありがたい。

(5) 下村委員

- 本日の資料にもあるように、平和記念資料館には年間 152 万人の観光客が訪れているが、その後はすぐ宮島に行かれてしまう。広島城でも 30 万人程度の人しか行っていない。このように、1 泊できない広島が非常に魅力のないところになっている。このため、旧市民球場跡地、中央公園広場、広島城、広島市美術館などの魅力や周辺の回遊性を向上させることで、広島のお好み焼きを食べながらさらにもう 1 泊していただけるという状況が生まれ、中央部が活性化できると思う。カープが市民球場で試合をしていた頃は、勝った日の帰りにはお客さんは本通りを通って流川まで酒を飲みに行っていたが、現状ではそういうことが一切なくなり、大手町界隈の店は多く潰れてしまった。おりづるタワーができてある程度活性化しているが、スタジアム建設を機に活性化に取り組んでいきたい。
- サッカースタジアム自体については、日本や世界の成功事例や、マツダスタジアムの成功例などを参考すればよいと思う。野球と違ってサッカーの場合は、45 分 45 分の 90 分なので観戦の仕方が違うかもしれないが、寝そべて観られる席や、レストランで食事しながら観られる席など、いろんな観戦の仕方ができる施設の造りとしてほしい。
- 横浜スタジアムが 200 万人を動員したという記事を見たが、近くのビール工場など周辺も含め、回遊性豊かなまちづくりをしていることで横浜は成功していると思う。広島も同様に、スタジアム単体で考えるのではなく、旧市民球場跡地などを含めた全体でのあり方をしっかりと検討していただきたいと思う。
- カープが優勝したときには本通りに人が集まってハイタッチをしている。サンフレッチェ広島が何回か優勝したが、まだそこまでのポジションにはなっていないと思う。カープは歴史的な背景から現在のような地位になっていると思うので、サンフレッチェ広島は現状を打破するためにも、スタジアムが中心部に来ることを機に、若い人を含め広島全体の更なるファンづくりをしていただければと思う。
- また、スタジアムへの動線については、現状は迷路のような地下道を通らなければならない。ペデストリアンデッキを整備し、試合に勝った日には V ロードのように旧市民球場跡地の方向に歩いていただき、紙屋町・八丁堀まで足を運んで酒を飲んでいただいたり、あるいはそごうのビアガーデンで飲んでいただければ、さらに紙屋町・八丁堀にお金が落ちるのではないかと考えている。旧市民球場跡地や県庁の建替えなどを含めて一体的に開発を行い、スタジアムでスポーツ大会や M I C E などを開催することで、広島の活性化が図られると思う。
- 広島は東京に続いて国際的に有名な街である。スタジアムは 3 万人しか入れないのでなかなか難しいのかもしれないが、ラグビーに負けないようなサッカーの国際試合を誘致し、ピースを冠したイベントなどを行えばさらに活性化すると思う。

(6) 辻委員

- おもてなしの点で、安全であるということは最低条件である。今週末にあるフードフェスタは 20 万人の集客があるが、サッカーの試合のように一時に人が集中するわけではない。サッカーの試合日は、一時に何万人という人が動くので、その際の安全性を確保していただきたい。
- また、防災の観点も必要である。このたび台風の際、外国から来た方に対する防災の情報発信がかなり手薄だったと国も言っていた。防災の機能について、サッカースタジアムだけではなく、中央公園全体を見ながら整備していただきたい。現在、広島城三の丸に約 60 台分の大型バスの

駐車場があるが、今後そこに商業施設の建設計画があり、駐車場が無くなった場合に、例えば、河岸緑地を活用して平時は観光バスの駐車場、災害時には救助隊や自衛隊のための駐車場とすることが考えられる。

- ・ 次に、国際性の観点が重要である。広島市は年間 160 万人程度の外国人観光客が訪れており、そのうち 30 万人程度が平和記念資料館に行っている。また、広島城は年間 30 万人程度の観光客が訪れているが、そのうち 3 分の 1 以上が外国人である。このため、施設は国際性の観点到に配慮して整備していただきたい。スタジアムの収容規模が 3 万人規模で国際大会を誘致できるかは分からないが、2002 年 FIFA ワールドカップ誘致の際、現在のスタジアムの施設が少しずつ不十分だったために国際イベントを誘致できず苦い思いをしたことがあるので、今回は中途半端なものを造るのではなく、国際的に通じるものを造っていただきたい。また、広島市はグローバル M I C E 強化都市でもあるので、どんどん外国の方が来ても受け入れられるようにグローバルスタンダード、ユニバーサルスタンダードの観点到に配慮していただきたい。
- ・ 次に、多機能化・複合化についてである。1 つのイベントやスポーツだけでは、2 万人規模のイベントを年間 40 回開催しても 80 万人しか集まらず、それでは民間企業はペイできない。このため、やはり複合型のスタジアムとすることを重視していただきたい。例えば、ピッチの中で F I S E などのイベントが開催できるよう整備することが考えられる。性能の高い人工芝などもあつたりするので、そうした技術を利用して整備していただきたい。
- ・ また、回遊性も重要である。平和記念公園や旧市民球場跡地から中央公園広場まで、安全かつ楽しんで通っていただくことが大事である。深山会頭がおっしゃっていたように、サッカースタジアム建設を起爆剤として、八丁堀を含めた周辺地区の回遊性が高まるようにしてほしい。
- ・ また、基町地区について、約 3,000 戸で 6,000 人程度の住民がおり、そのうち 3 分の 1 が外国人であると聞いている。今後、日本の人口が減る一方で、労働力を頼ってますます外国人が増えていくと思う。このため、外国人の住民に対して、言語だけではなく生活スタイルなどについても配慮が必要だと思う。そして、やはりこの地域に住む若者を増やし、地域が活性化するようお願いしたい。
- ・ 最後に、私は広島城のあり方に関する懇談会の委員をしていることもあり、上田宗問先生から「中央公園広場は広島城の西の丸だった」と伺った。こうした歴史を大事にし、広島城が見えるスタジアム、広島城から見えるスタジアムとしていただきたい。街中スタジアムでありながら、江戸時代の文化、広島を歴史を大事にしているというイメージのスタジアムにしていきたいと思う。

(7) 福村委員

- ・ 1 点目として、サッカースタジアムへの動線と街中への回遊性の確保の観点到である。スタジアムへの主要な動線は、駅や電停、バスセンター等の交通拠点からの徒歩であるが、来場者 3 万人の人たちが車道等にあふれたりすることなく、安全にストレスなく歩行できなくてはならない。そのためには、動線は 1 つではなく複数のものが存在し、そこから選択され、行き着くことができることが必要だと考えている。
- ・ 具体的には、サッカースタジアムと都心部との動線のループ化を提唱したいと考えている。仮に紙屋町の交差点を起点とすると、鯉城通りを北上し、城南交差点からサッカースタジアムに達して、スタジアムから南下して相生通り、あるいは広島グリーンアリーナ、基町の地下プロムナードを経由して、紙屋町交差点に戻ってくるといったループを実現していくことが考えられる。広島城の交差点の付近は歩道が狭いところがあり、鯉城通りを横断する際には暗いアンダーパスしかないなど、歩きやすいとは決して言えない状態である。投資は大きくなるかもしれないが、

ペDESTリアンデッキ等によりスタジアムまでストレスなく行けることが必要である。

- こうしたことが機能すれば、スタジアムの集客性アップのほかに、沿線にある交通拠点や相生通りの都心部、ひろしま美術館、ひろしまグリーンアリーナといった既存の施設、さらにはやがて整備されると期待される旧市民球場跡地との回遊性が向上して、まちづくりにも大きく寄与するものと考えている。
- 2点目として、サッカースタジアム自体の機能についてである。サッカーのJ1リーグの試合は年間20日程度しかなく、試合のない日のほうが圧倒的に多い。試合がない日にもスタジアムに足を運んでいただきたいというのが、このスタジアムの課題だと思うが、そうした賑わいのために必要な機能、コンテンツについて、しっかりと検討していかなければならないと考えている。コアなサッカーファンはもちろんだが、サポーターではない方にも足を運んでいただくためには何が必要かということである。いろんな切り口があると思うが、今思い浮かぶことを言えば、「ナイトタイムエコノミー」にまつわるものが1つの案として考えられる。夜の世界を楽しんでいただければ、宿泊につながるということもあると思う。近隣の住民の方にも配慮しながら、そうした機能の整備を考えていく必要があるのではないかと考えている。
- 3点目として、スタジアムの運営オペレーションについては、周辺を含めたエリアマネジメントの視点が非常に重要になるということである。どのようなオペレーション体制となるのかは不明だが、スタジアムを含む中央公園広場だけではなく、都心部エリアと連携をして、中央公園・都心部一体のエリアマネジメントとして継続的に、あるいは常態的にエリアの賑わいを創出していくことができる状態になってこそ、やがて整備される旧市民球場跡地も合わせて、スタジアムが建設されることの大きな意義の一つであるのではないかと考えている。
- こうしたことを展望する中で1つの例として、現在、サンフレッチェ広島では「サンフレッチェコイン」というものを開発がされている。これは、人々の都心での生活の中に、クラブの応援を溶け込ませるための、要はインフラとも呼べるものと理解しており、クラブと都心部とが上手く連携・協力して展開していけるツールにもなると考えている。スタジアムと都心部との回遊性や、クラブを応援するサポーターの拡大等にも寄与すると考えられる。いろいろな技術革新が進む中でこうしたICTの取組や、今後広がるであろう5G等の最新のテクノロジーなども取り入れたエリアマネジメントの取組ということも考えていく必要があるのではないかと考えている。

(8) 佐藤委員

- Jリーグというコンテンツホルダーの立場として、3点ほどお伝えしたい。1点目は、Jリーグは昨年12月に理想のスタジアムの4要件を公表したが、これをぜひ満たしていただきたい。1つ目は、アクセスがよいこと。2つ目は、全ての観客席が屋根で覆われており雨に濡れないこと。3つ目は、複数のビジネスラウンジやスカイボックス、高密度Wi-Fiといった機能を備えている、一言で言うとホスピタリティ設備を有していること。4つ目は、フットボールスタジアムであること。中国地方にフットボールスタジアムが1万人規模の鳥取バードスタジアムしかないのは不思議なことである。
- 2点目としては、夜間の安全性を確保していただきたい。私が中央公園広場に初めて足を運んだのは夜だったが、藤口委員に道案内をしていただき、広島駅から広電に乗って、薄気味悪い地下道を通って行ったが、真っ暗で何も見えない不気味な敷地だった。Jリーグの年間の試合の半分はナイトゲームである。これから365日スタジアムを活用していくということを考えると、広い歩道橋もさることながら、学校や会社が終わってからスタジアムに足を運ぶ際などに、夜が不気味で怖いということから何とかしなければならないと強く感じた。翌日は非常に良い天気だったので、そこで初めて「良い公園だな」という良い印象を持ったが、第一印象は暗くて物騒だ

という印象だったので、そこから改善していただきたいと思う。

- ・ 3つ目は、スタジアムが豊かなコミュニティを形成する開かれた集いの場となるようにしていただきたい。Jリーグは「スタジアム」の頭に「ホーム」という言葉をつけている。これは、サンフレッチェというクラブや選手だけのホームではなく、サンフレッチェを取り巻く市民を始めとしたホームタウン全体のホームスタジアムということである。先ほどから複合化というキーワードが出ているが、特にこれから必要なのは、豊かなコミュニティづくりを実現するハブとしての機能である。単に商業施設を併設すればよいということではなく、行政サービス、医療、福祉、教育といった、そこに行けば日常的に必要な機能が揃っているスタジアムであることが必要だと考えている。広島スタジアムが、現代のホームスタジアムにおけるショーケースとなってほしい。

(9) 野坂委員

- ・ 広島市スポーツ協会は、市のスポーツ大会の運営の協力や、市から委託を受けてスポーツ施設の運営などを行っている。このような立場上、各方面からいろいろな意見をいただいているので、そうしたことも踏まえての意見をお伝えしたいと思う。
- ・ 中央公園広場はビジネス街から比較的に近い。また、中央公園や広島城周辺、河岸緑地等は、ウォーキングやランニングをする場所としてすでにある程度整備されていると思っている。こうしたことから、ビジネスパーソンや海外も含めた観光客などが、ウォーキングやランニングを楽しめる機能をぜひ持たせていただきたいと思う。昨今の企業経営において「健康経営」の取組が求められる中、中小企業の場合にはそうした福利厚生施設を自前で持つことが難しい企業もあるため、そうした点でも大いに寄与する施設にしていただければ、施設の需要も高まるのではないかと思う。
- ・ サッカースタジアムを点で考えるのではなく、エリア一体を面でとらえて新たな空間の価値創造をするべきだと考えている。広島の新しい賑わいの拠点とする取組が必要であると考えている。都市公園法の制限を受けるとのことだが、公園を日常的に市民が集う場所とするためには、佐藤委員からもあったように、そこに行けばいろんなものが揃っているというスタジアムであることが必要であると考えている。
- ・ また、ビジネス面の観点からは、そこに店を出したいと思えるような場所であればならない。都市公園法の制約を受けるために、店を出したいと思えないような場所であれば、おそらく誰も手を挙げてくれないので、柔軟な運用ができるよう国と粘り強く協議していただきたいと思う。

(10) 森崎（和）委員

- ・ 選手目線で考えた時に、スタジアムは、選手がピッチで最高のパフォーマンスを見せるために、選手の精神的・身体的ケアを十分にできるような環境作りが必要だと感じている。特に、選手にとって多くの時間を過ごす場所の設備の充実と、負担のない動線作りが重要だと思う。選手は試合当日、試合開始の1時間半前にスタジアムに入り、控室であるロッカーに入る。その後はトレーニングウェアに着替え、精神的や身体的にリラックス、又は集中力を高めるために音楽を聞いたり、室内練習場でボールを蹴ったりして過ごしている。そして、試合に向けたミーティングを行った後、ピッチでのウォーミングアップ、キックオフを迎える。試合後には、次の試合に向けた疲労回復のための身体的ケアもロッカーで行う。このように、試合の日の大半の時間は、ロッカー、室内練習場、グラウンドで過ごすことになる。また、スタジアムに入ったときに、ここが自分たちのホームスタジアムであると感じられることも必要であるし、何より気持ちの高ぶりが最高潮に達する入場時に、絶対に勝つんだと感じられる装飾や雰囲気作りも必要だと思う。
- ・ また、行き届いた芝のメンテナンスも重要である。シーズン中はホームの連戦も考えられるた

め、行き届いた芝のメンテナンスは選手のプレーの質を高めるとともに、怪我の軽減にもつながる。

- ・ 試合中はスタンドから多くの声援をいただくが、スタンドとピッチの距離が近ければ、サポーターの声がさらに選手の耳に入り、それは間違いなく選手の後押しとなる。クラブは日頃からサポーターの方とコミュニケーションをとっているが、スタンドとピッチの距離が近くなることは、観戦者側にとってもより観戦しやすくなるのはもちろんのこと、選手の表情を間近で見ることができ、ピッチで繰り広げられるぶつかり合い、チーム間で交わされるリアルな声が耳に入れば、さらに応援にも熱が入るといった声も聞いている。
- ・ 昨年まで19年間選手としてプレーして、今年からフロントに入って感じたことは多々あるが、その中で忘れてはいけないことだと思ったことは、自分がこれまで選手生活を過ごすことができたのも、広島を背負ってプレーした多くの諸先輩方の御活躍があつてこそだと感じている。そうした歴史ある広島のサッカーヒストリーを感じることができるミュージアムも必要だと思っており、その思いをこれからの未来を担う子供たちにも自身の中に刻んでもらい、新しいサッカースタジアムが多くの子供たちの目指す場所となることを願っている。

(11) 高橋委員

- ・ ここまでの都心にあるサッカースタジアムは全国でもなかなかないため、世界に誇れる立地だと思う。スタジアムにはどうしても広い敷地が必要なため郊外に行きがちだが、広島のだ真ん中でこうした計画が進むということは素晴らしいと思っている。
- ・ 一方、サッカーの年間の試合は少ないため、コストパフォーマンスがとても重要であると思う。年間の利用者をどの程度で見込み、いかに人を動員するかということをしっかり考えていただきたい。私が個人的に思っていることは、とにかくここへ行くのが楽しい、役に立つ、たびたび利用したいと思えるような施設としていただきたい。
- ・ 日本は高齢化社会を迎えており、私は71歳だが老人クラブの中では若造の部類であり、80歳以上がざらである。このように、皆が年を取ってどんどん高齢者が増えていく時代であるため、高齢者や障害者にも優しい施設を造っていただきたい。例えば、トイレには必ず手すりを設けていただくなど、弱者が利用しやすいよう、細かいところまで配慮の行き届いたスタジアムとしてほしい。これはスタジアムに行くまでの道程も同様である。
- ・ また、先ほどから回遊性についての意見が多く出ているが、都心のど真ん中であるためしっかりと考えていただきたい。また、広島は観光バスを置ける場所があまりない。平和記念公園に観光に行かれた方は、お昼は3、4台の観光バスで移動して広島のグルメを食べに行くと思うが、バスが乗り込める場所はなかなかない。例えば、スタジアムに観光バスが駐車でき、広島のグルメを提供できるような複合施設を造れば、試合のない日にも皆が利用できると思う。
- ・ 新たなスタジアムとともにサンフレッチェ広島はますます強くなっていただき、マツダスタジアムにも負けないぐらいにファンで賑わってほしいと思う。今のホームスタジアムは遠すぎてなかなか行かないが、中央公園広場なら仕事帰りにも行ける立地なので、ファンもさらに賑わっていくと思う。

(12) 向井委員

- ・ 昨今、ユニバーサルデザインまちづくりと言われているように、バリアフリーに向けた取組が必要であると思う。例えば、障害者が移動しやすいように、段差がないことや、スロープの両側に手すりを設けること、車イスの方が入れるエレベーターの広さを確保することなどが考えられる。また、非常口について分かりやすい表示をしていただきたい。

- ・ 視覚障害者の利用の観点から、点字ブロックをつけていただきたい。視覚障害者は観ることはできないが、雰囲気を楽しむことはできる。例えば、トイレの場所や出入口が分かるように点字ブロックを表示していただきたい。
- ・ 観客席について、車イス席の区画を設けていただきたい。その際、介護者も一緒に観ることができる広さを確保していただきたい。また、サッカーを観戦する際には立って応援される方が多いと思うが、前の人が立ち上がっても車イス席から座ったままピッチが見えるような高さにしてほしい。最近は車イスの方も多く出掛けるようになっているので、そうした席を設けていただければ車イスの方も楽しく観られるのではないかなと思う。
- ・ また、オストメイトや車イスの方が利用できるよう、多目的トイレを複数箇所に造っていただきたい。その際、同伴の介護者が男女共用で入れるようにしていただきたい。男性の障害者に女性の介護者が同伴した時に、介護者が外で待っていて介護ができないということがあるので留意してほしい。
- ・ 広場については、誰でも使用でき、家族で楽しめる広場としてほしい。大小の遊具があれば、小さい子どもを連れて親子で遊びに来れると思う。現在、北側と南側に水路があるが、鯉などの魚が泳いでいるような水路となれば、子どもが楽しめるのではないかなと思う。また、広場にステージを造った場合には、騒音対策をしっかりと検討していただきたい。いずれにしても、賑わいのあるまち、人が集まるまちにしていきたいと思いますと思う。

(13) 山田委員

- ・ 試合があるのは20日程度とのことなので、試合がない日にどう利用するかだが、女性としては、子育て世代も気軽に行けるような施設としていただきたい。現状は、土日になると、駐車場があり、遊具も無料で使える郊外に出て、遊びに行っているの、そうした点を考慮していただきたい。
- ・ スタジアムには授乳室を設けてほしい。市内の大型店舗のトイレには授乳室がとても充実しているが、シャレオなどは割と少ないと感じている。また、広島駅はとてもきれいになっており、子育ての目線で造っていただいていると思うので、スタジアムを造る際には、女性目線で考えていただきたいと思う。
- ・ スタジアム建設に当たっては、やはりサンフレッチェ広島に強くなっていだかないといけない。また、私は地元が白木で小学校は少人数だが、小学校にプロ野球選手やサッカー選手が教えに来ていただくと子どもはとても喜ぶ。こうした活動をするだけでも、サッカーを観に行こうかなとなるので、是非頑張ってください。

(14) 田中委員

- ・ スタジアムの活用を考えるに当たって、周りの人がどのように活用しているのかを知るために、大学の同級生や広島市内に住む方々に、中央公園にどのような時に足を運ぶかについて聞き込みを行ったところ、多くの若者は本通り商店街に行くことが多く、中央公園まで足を運ぶことはなかなかないということが分かった。また、公園に行く機会のある人は、近辺での行事の後の散歩や休憩の間に中央公園に足を向けているということが分かった。公園そのものに目的をもって足を運ぶ人は少ないという印象である。
- ・ そのため、学生のような若年層がスタジアムまで足を運ぶためには、スタジアムに行くための目的が必要である。具体的には、定期的なイベント開催や音楽のライブが考えられる。イベントの例としては、旧市民球場跡地で開催されているひろしまフードフェスティバルや、せとうち旅グセフェスタなどのイベントである。食や文化に係るイベントは、スポーツにそこまで関心

のない若者でも多く足を運んでいる。また、イベントの運営に広島県内の学生を動員すれば、より若者を集められるアイデアが出てくると思う。よって、スタジアム周辺の定期的なイベント開催が効果的であると考えている。

- また、公園利用者の多くは、子供を遊ばせるために訪れる親子連れである。市内には他にも公園があるが、土地が狭かったり、車通りの多い道路に隣接していたりという危険を感じる場所が少なくないと思う。中央公園は広く安全な場所なので、安心して子どもを遊ばせられる貴重な場所だと思う。日常的にスタジアム周辺に人を呼び込むためには、子ども連れがより安心して心地よく過ごせる場所にする必要があると考えている。
- このため、子どもが遊べる大型の遊具や、サッカーなどの球技を行うことのできる場所があればいいと思う。市中心部のその他の公園には大型の遊具が設置されている場所が少ないので、1つ大きな遊具を設置して、子ども連れが来るかを見てみてはどうかと思う。また、球技が行える場所が公園内にあれば、遊具で遊ぶ年代を超えた小学校高学年から中学生の間の子どもたちも公園に足を運んで遊ぶことができると思う。
- また、公園内で子ども向けのスポーツイベントなどを開催するのも1つの案として考えられる。サッカーやラグビーなど複数の種目を体験できるようなイベントをサッカー場周辺で開催することで、スポーツの楽しさに子どもたちが気付くきっかけになるのではないかなと思う。
- また、中央公園広場はアクセスが良い場所だが、子どもを連れて本通りのほうまで歩くのは大変である。公園内にカフェやレストランなどが揃っていれば、公園内ですべて完結できるため、子ども連れの方も快適に過ごすことができるのではないかと考えている。
- 私たち若者がこれから広島市で暮らしていく中で、また、家族をつくり子どもを育てる中で、子どもを安心して遊ばせることのできる場所が市中心部にあってほしいと思う。スタジアムの周辺で遊んだ記憶のある子どもたちが、将来大人になってからもスタジアムに足を運び、永くスタジアムを愛してくれるものとなるよう祈っている。